

地蔵菩薩像 10世紀の作

行基から
20年後 博物館の調査で判明

鳥取県倉吉市鍛冶町の満正寺（岩田英俊住職）

は珍しいという。

にまつられ、奈良時代の

満正寺は元禄十二年（一六九九年）、鳥取池

高僧・行基作と伝えられ

田藩筆頭国家老、倉吉荒

る延命地藏菩薩像が、十

尾家の菩提寺として、三

世紀ごろ（平安時代中

代目の秀就（ひでなり）

期）の作であることが二

が建立。その際、廃寺、

十五日、倉吉博物館など

安楽寺復興を名目にした

の調査で分かった。行基

ため、安楽寺の本尊だっ

が活躍した時代より約二

た地藏菩薩像を満正寺に

百年新しくなるが、平安

移して、まつってきた。

時代中期の木彫は県内で

地蔵菩薩像は高さ九十

現や胸のふくらみなどから、平安時代中期の作と判断した。

岩田住職は「倉吉市の

宝として大切にしてい

たい」と話していた。満

正寺（☎0858・22・

3468）は、地藏菩薩

像修復のための募金を行

っている。

金子啓明・東京国立博

物館事業課長の話 「全

体が焼けているのが残念

だが、一木造りの菩薩像

で平安時代中期までさか

のぼるものは、鳥取県内

では珍しく、貴重な作品

だ」



平安時代中期の作と分かった延命地藏菩薩像